

大むらさきつつじ

市川茂子

枝を張る桜の大樹くろぐろと霏みぞれまじりの雨に光れり

廃校に残る桜の大樹あり胴吹きの花ぼつぽつ開く

頸椎を損傷したる友ありて術後に介護施設へ移る

ひと年のリハビリりつづく友見舞いあの日あのこと語り合うとき

若きより強き心の友にして見舞に行くも励まされおり

リハビリの辛きに耐えて車椅子あやつるまでになり居て友は

施設にて療養の日々いかばかり人ごとならずと思いめぐらす

戻ることなきに生死しようじのひと世なり喜怒哀楽を抱えつつゆく

大むらさきつつじ折り来る境界の塀越えて咲く枝にてあれば

手折りたる大むらさきつつじ色冴えてまばゆきばかり部屋の華やぐ